5）籌木について

Woodenstik as toiletpaper

北九州市　上瀉口武
九州歯科大学　小林　繁

Takeshi Kamigatakuchi, *Kitakyushu City*
Shigeru Kobayashi, *Kyushu Dental College*

昭和62年の終り，福岡市城内平和台球場の外野席改修に当り，遺跡の出土品が発見され，発掘品から戦前中山平次郎九大教授の指摘された鴻臚館の跡であることが分かった．

中国の青磁，イスラムの陶器，ガラスの破片等の出土が報ぜられた時，何度か観察に出かけたことがあった．

この地は戦前陸軍の連隊があり立ち入り禁止とされ，戦後は平和台野球場，陸上競技場，裁判所，学校等が建ち，多くの期待や予測されながら場所の特定が出来ないできた．

鴻臚館は太宰府の外交部門を司った建物であり，奈良朝前期（8世紀）から中国，新羅を通じ大陸の文明，仏教の伝来，遣唐使の派遣，通商など，わが国の窓口となった．また南方の海上交通による通商もみな鴻臚館を窓口として大和朝廷に通じたといわれる．

第六次調査で当時の建物が一部が復元されたと知って訪れた．極彩色の異次元の建物が展示館の内部に建てられ，その周囲に出土品や発掘の経過のパネルが展示してあった．

その際近くの土砿の中に夥しい変色した細長い棒切れや木簡が打ち捨てられ，籌木という難しい漢字が書いてあり（ちゅうぎ）と読み，用便の後始末に使用したものであった．

普通後始末としては紙，藁，縄，水などが考えられるが時代，食習慣もあるかも知れないと深く考えることもなかった．むしろこのころ籌（かぞえ）と呼ぶ人を知っており，違和感を覚えたがそのまま忘れていた．

この間，教室の下田妙子講師（現東京医療保健大学教授）の新疆ウイグル地区トルファンにおける文化人類学調査の報告を聞いた折，用便の後始末を訊いたところ，砂で処理しているとのことで，却って不便はないか問うたところ，非常に乾燥しているのですぐ乾き不便はないとのことだった．

計らずも今年初頭福岡市博物館で，みちのくの浄土「平泉」展が開催された時，藤原三代の都「平泉」の数々の黄金仏，経文などの仏経文化の展示物の片隅に籌木があり，傍に婦人用便の図があった．そこで改めて西国の鴻臚館と平泉の籌木について考察を試みた．

日本史大事典：平凡社刊をみると籌木は排便の後始末に使う棒や箆，籌，糞箆（くそべら），トウカキ棒，カワヤベラとも呼ばれる．中略：

道元は「正法眼蔵」で「痾屎退後：あしついご」すべからく使籌すべし．又かみをもちゐる法あり，故紙をもちゐるべからず．字を書きたらん紙，もちゐるべからず．浄籌・触籌わきまふべし．と寸法，使用法を述べ，また，「餓鬼草紙」のなかには排便中の図があり：前出，民俗例として各地で明治の終りころまで普通に使用されていた記述がある．

道元は十一世紀鎌倉時代の高僧で，入宋帰国後，曹洞宗の開祖，越前に永平寺を開く．

そして仏教的見地から経文を写す紙を粗末にせず，厳しく用後の作法を規定している．

出土例として太宰府鴻臚館跡と岩手県平泉の柳之御所跡，秋田県大館市の矢立廃寺ら十二世紀時代の便所から多量に出土し，平城京長屋王邸跡からも籌木が多く出土している．

鴻臚館跡の第六次調査で便槽から出土した籌木は長さ数十センチ，板状のもの，棒状のものがあり，いずれも丁寧に削られ，木簡の再使用のものがあった．当時は紙は貴重で少なく，紙の代わりに木簡が使われ，使用後字を削って再利用した後，利用出来なくなったものを籌木としており，百点程出土していたと記述があった．

便槽の出土品，糞土層から沢山の虫卵，多数の瓜の種，これは平泉の糞便にも共通しており，何れも寄生虫に悩まされていたと考えられる．ほかに魚骨，獣骨などがみられ，鴻臚館の報告の中に糞泥中の脂肪酸の分析がなされていた．

最初，鴻臚館は大陸文化受容の接点あるいは接待所でもあり，籌木使用の風習は大陸系の食餌のせいではと考えたが，展示館の話では主食は米食だった由であった．

稲作農耕については弥生時代に北部九州に伝来したと考えられてきたが，近年那の国と考えられる土地に水田跡の発掘が報ぜられ，また土器についた籾跡から，すでに縄文時代に東北北部にまで稲作があったことの論争も最近知ったことである．

一方イネ科植物のプラント・オパールの研究により稲作，水田跡の解析が進み，現在も多くの発表がなされているが，まだ継続中なので文献は省略する．

籌木は日本史大事典から使用についての解説があったが，知人の名字にこの漢字があったので改めて辞書を調べてみた．

◎「字統」…白川　静著/平凡社

籌：ちゅう，チュウ，かずとり，かず，はかる，はかりごと．

「壺の矢なり」投壺という，宴席での数とりの器．矢なげの座興における数とり器．

「礼記」漢・200年代：投壺にその方法が詳しく記されている．以下省略

一般の計算にも用う（晋書）

◎「字源」…簡野道明著/字源刊行会

籌：チュウ，かずとり

投壺に用うる矢，投壺の戯に用うる矢．はかりごと．

◎「広辞苑」…第五版/岩波書店

籌：チュウ，かずとり，くじ，はかりごと．

「籌略，籌策」

籌木：ちゅうぎ

① かずとりの棒．

② 用便の際，尻を拭う木片，掻木（かきぎ）

◎「大字源」…角川書店

籌木：チュウ　トウ

（Ⅰ）

① かずとり，数をかぞえる竹の棒（漢）

② や　投壷の矢，礼：→投壷

③ はかりごと．

（Ⅱ）

いただく，かぶる，かずとりの意．

◎「大辞泉」…小学館

籌木：ちゅうぎ．

① 籌に仝じ．

② 昔用便の際に尻ぬぐいに用いた木片，木ぎれ．

辞書を引いてみると，用便の後始末の意味は少なく，「字統」に見られる投壷の戯，つまり遊戯のことであり，出典は「礼記」（らいき：漢200年代）にあり，非常に古い時代からの言語といえる．

試みに用便関係の出典を探すと「轍耕録」があり，これは中国明時代の随筆集であるとの文献なので，いずれにしろ後年代と考えられる．（江戸のトイレ：渡辺）

余談であるが今年の春，中国三国志の映画「レッドクリフ Part Ⅱ」を観た．今稿の考察の折り，打ち続く壮大な赤壁の決戦の場面のどこかに，籌：「礼記」にある投壷の画面を観た気がしたので，再度観に行ってみた．

この映画のプロローグともいえる始まってすぐ，戦いの前夜ともいうべき陣中閑有りの情景として，魏軍の陣中では蹴球のような蹴鞠が，続いて周瑜の軍では壷中に矢を投げ入れるゲームが始まっていた．この後者の状景は説明の言葉も判らないし，無かったのではないかと思うし，もちろん籌木という難しい字も見なかったと思った．

面白いことにはエピローグというか，巻末のキャスト，スタッフなど延々とあり，ちゃんと漢代時代考証と私にも読めるスタッフのグループの欄があったのに感心した．

この壮大な三国志の世界は，映画である以上娯楽性が占める部分が多いのは当然であるが，演題の籌木に限らず衣服，什器，風習，艦船，浮舟，武器火薬，陣形，遊戯などについて当時の数々の史的知識を知り，時代考証の重厚さを知った．

斯様に籌木は二世紀頃には，鴻臚館の時代と違った意味があることが判った．

室町時代の日本語を収録している日葡辞書（1603年，長崎版）をみると，ちゅうぎ（Chugui）は忠義しかなく，用途から調べてみると糞掻（Cusocaqi）があった．

鴻臚館跡で見た籌木が風習として国内各地に残ったこと，食べ物，稲作に就いても考察を試みた．プラント・オパールに就いては，まだ議論の余地があると考えた．